

特集1 | イノアツクソと行く 素材で暮らしを豊かにするツアー



SlimFlex 編

イノアツクソでは、ウレタンフォーム・ゴム・プラスチック・複合材によって、
さまざまな場面で快適な生活を支える製品をつくっているんだ！
今回はイノアツクソグループのひとつである(株)イノアツクソスリムフレックスで
製造している「SlimFlex」の工場を大冒険！
「快適」のための素材は、どうやってつくられて、みんなのもとに届くんだろう？
素材のひみつをのぞいてみよう！



イノアツクソの紹介

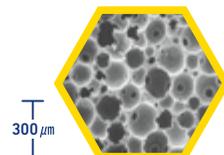
イノアツクソのオリジナルキャラクター、ウレタソの妖精・イノアツクソ！
いろいろなカタチや製品に変化し、皆さんの生活にやさしく寄り添っています！



SlimFlex って、 どんな素材？

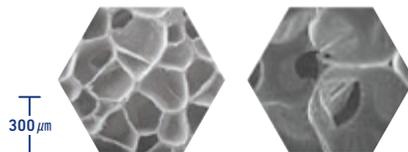
マイクロセルポリマーシート「SlimFlex」は、高密度で、極めて微細、かつ均一なセル構造を有した高機能ウレタンフォームだよ。厚みはなくても優れた衝撃吸収性・シール性・寸法安定性・加工性などの特性をもっていることからさまざまなところで使われているんだ。

他素材と比べて非常に微細な泡



SlimFlex

SlimFlex と比べて他素材は不均一な泡

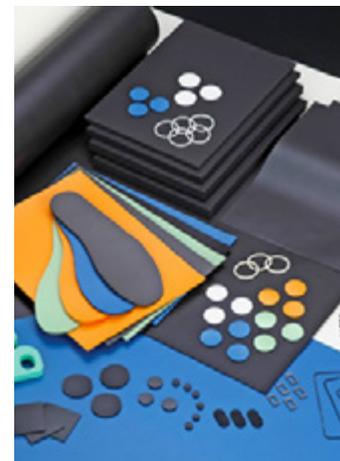


CR スポンジ

PE フォーム

SlimFlex だから できること

みんな長時間歩くと疲れるよね。SlimFlexを使用したインソールは、衝撃吸収性があるから身体にかかる負担が少ないんだ。さらに、へたりにくいから長持ちもするよ！



次のページにつづく

特集1 | イノアックと行く 素材で暮らしを豊かにするツアー



1

素材開発

2

製造



お客さんから必要な条件を聞いて、それに見合った素材としての商品試作から始めるんだね。これまでの開発ノウハウを活かしている原料を組み合わせながら、必要とされるものをつくりだすなんて、すごい!



実験室レベルでの試作の様子

試作が終わるといよいよ本格的な製造。品質を保つことはもちろん、働く人の安全のためのさまざまな準備も必要なんだ。

毎回すべての製品の品質をチェックをするんだね。品質にもいろんな項目があるんだ。お疲れ様です!



左から、製造工程内での品質確認の様子、断熱材「サーマックス」で囲った加熱炉、品質試験の様子

?! イノアックの サステナビリティ

環境と性能の両立

一部のグレードでは、植物由来原料が使用されているんだって! 環境への配慮だけでなく、耐熱性やシール性などの機能向上を図る目的としても、植物由来原料が使われているんだね。

非可食用の植物原料を選んでいるんだって! そうすることで、食糧問題を悪化させない配慮もしているんだね。



カーボンニュートラルの 取り組み

温室効果ガスの排出量を削減するため、さまざまな取り組みを進めているよ。工場の駐車場には、ソーラーパネル付きのカーポートを設置したんだ!



特集1 | イノアックンと行く 素材で暮らしを豊かにするツアー



3 物流

イノアックグループへ運んで加工したり、お客さんに直接届けたり、緻密な計画に基づいて運ぶことが大切なんだ。倉庫も整理整頓！



工場内にある物流倉庫の様子

4 販売

つくるのは(株)イノアックスリムフレックス、販売はイノアックコーポレーションと、役割分担してそれぞれの作業に集中しているんだね。



?! 輸送時の積載方法の改善

積載率が低く、効率に課題があったんだ。製品特性を踏まえて積載方法を再検討し、社内での検証とお客さんからの承認をもらって積載効率の改善が実現したんだよ！

課題 一段積み輸送のため積載率が50%と低く、輸送が非効率



対策 社内検証とお客さんの合意を得て二段積みに変更し、積載効率アップ



?! ユーザー第一主義

「ユーザー第一主義」の品質方針を掲げて、マーケットインの姿勢を社員全員で徹底しているよ！お客さんの要望にすぐに応える社内システムにも力を入れていて、ミニサンプル帳や無料の試作加工サービスも行っているんだ。



左：(株)イノアックスリムフレックス 企画課 統括係長 藤吉 晃さん
右：(株)イノアックスリムフレックス 社長 野崎 純さん

特集2 | 白馬村プロジェクトのイマ

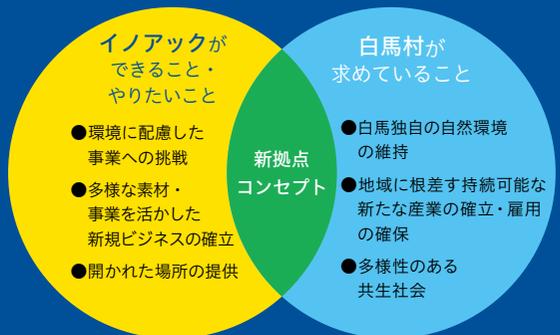
2022年12月に開設された白馬事務所兼ショールームは、約3年の活動を経て、2028年春の新拠点開設に向けた準備を進めています。地域との共生とブランドの確立に向け、白馬事務所メンバーを中心に、広報部ブランドコミュニケーション課および不動産管理部が連携した、ブランディングプロジェクトが始動しました。

サイクルスポーツイベント「IRC TIRE 白馬グラベルミーティング2024」を特別協賛（井上ゴム工業株式会社）



白馬とともに、未来をつくる

新拠点プロジェクトでは、一企業の事務所にとどまらない拠点を目指し、白馬村が抱える地域課題とイノアックだからこそできる支援、そして白馬で実現したいことについて、プロジェクトメンバーが何度も議論を重ねています。白馬村がイノアックに期待することにも耳を傾けながら、地域課題の解決と自社ビジネスの発展を両立する拠点づくりを進めています。



CSR推進に携わって約9か月、入社2年目の社員が白馬村へ行き、村民の方々のコエを聞きました。

雇用の創出は、白馬村にとって重要な課題です。村民の約7割が従事する観光業では、グリーンシーズンの稼働率低下が今後の焦点であり、ウィンタースポーツに代わる夏のアクティビティの展開に注力しています。雇用の不足は、白馬村と村民にとっての機会損失となりかねません。

白馬の自然環境と豊かな景観こそが、白馬村民が守りたいミライです。村のアイデンティティを保つためには、ときに変革を受け入れることも必要です。観光業による恩恵を享受しながら、豊かな景観を支える自然環境や農業を次世代へとつないでいきます。

私が感じたことは自然と人との共生を目指すことでした



その他白馬村での取り組みはこちらにて紹介しています。

<https://inoac-hakuba.com/>



特集3 | 100周年に向けて

イノアックグループは2026年に創業100周年を迎えます。

「素材で暮らしを豊かにする」というパーパスを礎に、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合材を活用した多岐にわたる事業を育ててまいりました。創業100周年を迎えるにあたり、これまで弊社を支えてくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。私たちはこれからも、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

100周年を記念して作業服をリニューアルする予定だよ。動きやすさやデザインを社員アンケートをもとに決めているんだ!



1963年 頃から国内の生産拠点が拡張していったんだ。写真は当時の北海道美唄工場だよ。

1979年 井上ゴム、エムテーピー化成の合併時の特別号

1990年 株式会社イノアックコーポレーションへ社名変更

2011年 3.11における活動と災害への対策を記した東日本大震災特別号

2025年 Sustainoacable! (サステイノアッカブル) を特集

経営方針から社員の活躍エピソードまで、幅広い情報を伝える社内報は、創刊以来70年以上にわたって会社と社員をつなぐ大切な役割を担ってきたんだね。災害時には特集号を発行し、イノアックとしての対策と今後の展開を伝える場としても活躍したんだ。



▷ FUTURE

▷1926

▷1954年 記念すべき社内報第一号

▷1959 1959年にウレタンフォームを使ったマットレス「カラーフォーム」の生産・販売を開始したんだ。みんなよく眠れるようになったのかな?

▷1959 スリランカに海外初の合併会社設立。ここから本格的な海外展開が始まったんだよ。

▷1960 1960年代から自動車部品としても使われ始めたんだ。今では重要な部品にも素材の特性を活かした製品が数多く使われているよ。

▷1961 1961年、LPGタンカーの断熱工事を硬質ウレタンフォームで現場施工したんだ。日本のLPガスの輸入に貢献したんだよ。

始めは自転車のタイヤの製造から。当時は自転車が物流の大部分を担っていたことを考えると、創業時から産業を支える事業を行ってきたんだね。

特集3 | 100周年に向けて

「イノアックの100年を思う」

取締役会長 井上 聡一

イノアックの歴史は、1926年に名古屋市熱田区に創業した「井上護謨製造所」から始まりました。幼い頃からゴムのにおいに囲まれて育ち、自転車タイヤの生産から始まった事業が、地域の工業化とともに工業用ゴム製品へと発展していくのを間近で体感してきました。

第二次世界大戦により、日本は大変な状況となりました。一方で戦後復興に向けた気運も大きく、ないない尽くしの時代ではありましたが、会社を再建し、働く人の生活も安定させ日本の復興にも寄与したいという気持ちで「がむしゃらに走ってきたな」と思っています。

1954年にドイツ・バイエル社との技術提携により、日本で初めてウレタンフォームの生産を開始しました。戦前からゴム薬



バイエル社との技術提携の様子
右端：井上 聡一
右から3番目：先代の井上 愛一

品の輸入をドイツから行っており、その関係もありウレタンフォームの紹介を受けてすぐにドイツに行きました。ドイツは同じ敗戦国ということもあり、親近感ももっていましたが、行ってみると驚きも多く、大変な刺激となったことを覚えています。戦火を逃れたバイエルの中央研究所に足を運びましたが、敗戦国とは思えないくらい自由な気風があり、未来を見据えて多くの研究者が働いていました。マネジメント意識や独立性を踏まえた強い意思をもって一人ひとりが取り組んでいた姿に感銘を受け、「当社もこうありたい」と思ったものです。また戦後の日本での米軍との付き合いにおいて、彼らの自由さであったり、各都市に図書館を設立していったりにいったことに国際性の重要性を感じさせられました。

その後も 1960年代にはアメリカで開発された石油化学をベースとしたポリウレタン原料による自動車用シートクッション材、天井材ほか内装部品、バンパーなどの外装部品の開発・生産を始め、1970年代以降はマイクロセルウレタンを開発し、事業の幅を広げていきました。並行して1959年スリランカでの合弁会社設立、1970年代には東南アジアへの展開も図ってきました。

30代から40代にかけては、ほとんど日本にいないことなく、世界中を飛び回っていましたね。成功の鍵は、現地に足を運び、人々と深く信頼関係を築くことだと確信しています。この精神は、これからのイノアックにも受け継いでいきたい大切なものです。

私たちは、海外進出において、ことさらに「日本」を主張するのではなく、その国や地域の人々を尊重し、現地社員の意欲を重視するマネジメントを心がけてきました。海外の工場で日本の国旗を掲げないのもそうした考えの表れです。これは、国内においても同じ考え方です。現在イノアックグループは 日本全国に展開していますが、その際も現地に赴き関係者と「絆」を結び、それぞれの考えを重視した運営を心掛けています。それが、「ヒトを大事にする」ということだと考えてきました。会社の規模が大きくなると組織に権威主義が広がりやすくなり、成長を妨げかねません。イノアックではこれを防ぐために、社長だろうと、部長だろうと、「役職名を使わないルール」をもってきましたが、形式的にならずに、各個人の発想と行動を尊重するといった本来の意図をもっと意識していくことも必要だと感じますね。



現在の井上 聡一

1990年に株式会社イノアックコーポレーションと社名を変更することになりました。これは「イノベーション」と「アクション」という根本的な考え方から名付けたとなっていますが、私の中では、冒頭の「IN」には、「International (国際性)」という意味も込められています。これからの100年においても人を大切に、失敗を恐れないチャレンジ精神、「イノベーション」と「アクション」の姿勢を大切にしていける「International (国際性)」を発揮することで、大きな「美しい森」を築いていけると信じています。

皆さまのこれまでのご支援に心より感謝申し上げます。イノアックの未来に、どうぞご期待ください。